

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
理科	生物	4	選択	理系	3

教科書（発行所）	生物（数研出版）
教科書以外の教材	1 ニューステージ 新生物図表（浜島書店） 2 セミナー生物基礎+生物（第一学習社）

目 標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにすること。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うこと。 3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。			
	学期	学習事項	学習内容	考查等
学習計画	1 学期	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	植物の生活と反応、環境要因の受容と植物の反応 種子の休眠と発芽、種子の発芽と光 植物の成長とオーキシン、成長の調節と植物ホルモン 物質の出入りの調節、植物の防御応答 花芽形成の調節、果実の成熟と落葉の調節	中間考查 期末考查
	2 学期	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	個体群、個体群の成長と密度効果、個体群の齢構成と生存曲線、群れ、縄張り、社会の構造と分業 種間競争、生態的地位と共存、被食者・捕食者相互関係、共生 生物群集、食物連鎖、多種共存のしくみ 生態系の成り立ち、生態系における物質生産、さまざまな生態系における物質生産、生態系におけるエネルギーの利用 生物多様性、生物多様性を低下させる要因、生態系の保全	実力考查 中間考查 卒業考查
学習計画	3 学期	生物の総復習および演習		
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	1 提出物・宿題は期限をきちんと守る。 2 用語を単独で「暗記」するのではなく、生物現象を全体的な流れの中で「記憶」していく。 3 ノートは余白をとりつつ丁寧に大きく書くこと。黒板に書かれないこともメモすること。 4 生物現象は図を描いて「記憶」していくこと。 5 予習を行う必要はないが、授業に集中し、復習をしっかりと行うこと。			

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	使える	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見だし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
	できる	生物や生物現象について、他の事項と関連付けて理解している。 学習内容の特質に応じた探究の方法を習得している。	生物や生物現象の中に課題を見だし、解決するための実験計画を立て、その結果を予測している。自らの予測について検証している。	生物や生物現象の中に探究活動の課題を探ろうとする。 生物や生物現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりする。
	分かる	生物や生物現象の概念を理解するための重要用語と、その用語に関わる知識を身に付けている。 観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	知識・技能を活用して、課題を解決するための方法に気づき、説明している。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、粘り強く学習に取り組んでいる。
評価の方法	授業時の観察、定期考查、課題確認テスト（小テスト）、課題レポート、週課題、授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価・自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。			